



同じものを創っていいこうとです。ずっと私の宝物です。そして、苦しんで創り上げた作品を表現でき

**A**「魅力って？」  
「人形劇の魅力かなあ」

**A**「でも続けて来たのは、それだけ？」  
人形劇を始めたのは17年前。小道具や、ペープサート、背景を頼まれて作るうち、自分の絵をいろいろな人に見てもらおう場を見つけられた、と思いました。

学生のころ、授業中夢中になつてノートの端に絵を描いても、誰に見せるわけでもなく、子育て中は、白い紙に向かうことさえやめていました。



# まちの達人

TATSUJIN

人形劇「とうふねこ座」

市川 雅子

ることのわくわく感です。また、身近な舞台だから、皆さんの目と反応を痛いほど感じます。」

今年、蒲郡で、いろいろな人形劇を観よう会を計画しています。5年間、「いいだ人形劇フェスタ」を観劇・上演してきましたが、人形劇の多種多様さ、迫力、劇人の芸人魂（プロ、アマチュアの枠なし）に驚かされました。と同時に、29年間人形劇のある環境で暮らす飯田市の人々、子どもたちはいいなと思

いました。それは、想像力（+創造力）を育むのは、読書だけではなく、人形劇も同じだと思うからです。限られたセットと空間だから、自分自身の想像の世界を広げられると思います。

かと言って、教育目的で観てもらうなんて思っていないです。できたら、ご家族で観に来てほしいですね。そして、団らの時、共通の会話のネタの一つになればともうれしいです。

蒲つ子の一人として、この街で皆で人形劇を味わいたいです。とうふねこ座にいつも温かい声をかけていただき感謝



【人形劇を観よう会(仮名)】3/23 ざりやく市 5/25 ざりやく市

【他の活動】広報まちがいがし、エコバックステンシル、形原商店街ガラス絵、傘絵、紙芝居 など

3歳のアシカ「アイ」がようやく単独でショーができるようになったことができました。少し前まではベテランの「ナナ」の前座として出ていましたが、前座なのに終わってからもショーステージから帰ろうとせず、ナナにショーを引き継ぐことができなかつたり、ショーの最中に寝ようとしたり、時には途中でポイコットをするなど、私たちを本当に困らせていました。しかし、最近ではようやく落ち着いてきて、種目もナナとほぼ同じくらいできるようになってきました。

アイは水族館にやってきた当初、その性格やしぐさから関係者の間ではお世辞にも評判がいいとは言えなかつたア

学芸員 小林龍二

竹島水族館 ☎68・2059

## アイの成長



3歳になったアシカ「アイ」

シカで、正直、私たち担当者も頭を抱える時期がありました。しかし、アシカはアシカ。どんなアシカでもアシカらしい魅力は持っているもの。人の個性と同じようなもので、それを見つけて伸ばしてあげることがこちらの役目です。前評判と違い、実はアイはとても頭のいいアシカで、自分で扉を開けたり、覚えた種目を応用し発展させることができます。さらに、アイは練習とショーをはっきり区別していて、本番（ショー）中は私たちがお客さんの前で自分を怒らないというのをしっかりと理解しているため、それをいいことに明らかに手を抜いた演技をしたりします。

まだ3歳なので今後、どのように育っていくのか本当に楽しみです。応援をよろしくお願いします。